



NPO高知県
日中友好新聞

2021年12月6日

No.73号

発行責任者 岡林俊司

編集人 坂本茂雄

NPO 法人高知県日中友好協会

〒780-0870 高知市本町4丁目

1-37丸ノ内ビル1F8号

TEL: 088-825-0011 / FAX: 088-825-0513

nichu-kochi@movie.ocn.ne.jp

<http://kochi-nichu.com>

“徐福伝説の里・佐川町、日中大学生交流リンゴ狩り”(11/3)

日中学生35名と会員など54名が交流を深める



NPO 法人高知県日中友好協会と高知地区中国留学生学友会の主催で、「徐福伝説の里・佐川町・日中大学生交流リンゴ狩り」が、11月3日に開催されました。

当日参加者は、中国人留学生15名、日本人大学生20名そして、NPO 法人日中友好協会会員と協力者19名の合計54名の参加となりました。

参加者全員が集合した

高知大学キャンパスでは、岡林俊司会長からの挨拶の後、14台の車に分乗して出発し、まず、土本観光果樹園で多くの学生さんが初めてのリンゴ狩りを楽しみました。

その後、徐福伝説の碑がある五位山緑地公園に行く予定でしたが、大スズメ蜂の巣が見つかり佐川町が11月2日に公園を使用禁止にしたため、虚空蔵山の天文台広場前の徐福に関する石碑前に場所を移しました。佐川町斗賀野出身で(故)明神健太郎氏(郷土史家)の甥で、協会会員でもある田村二郎氏による徐福伝説についての解説をいただきました。

「徐福」とは紀元前3世紀の秦の時代の中国の人物で、司馬遷の「史記」によると、始皇帝に「東方の三神山(蓬萊・方丈・瀛州)に不老不死の仙薬が在るのを調査したい」と願い出て、3,000人の従者と多くの技術者を従えて東方に船出して消息不明となったが、その徐福が訪れたという伝説は日本各地に残っています。

この地に伝わる伝説では、徐福一行が海で嵐にあい難破しそうになったとき、陸の山の山頂に光るものを見つけ、それに誘われるように宇佐の浦に流れ着き、その山に仙人が住むという噂を聞いて、ここそが三神山のひとつ蓬萊山ではないかと登ったのが、この虚空蔵山だと言われています。

その伝説の仙人が不老不死の薬の持ち主ではないかと搜索したが、ついに会うことかなわず、山頂に鉾を立て財宝を埋め、その後の徐福一行の行方は定かではないが、それあって、いつの日からか虚空蔵

山（佐川町と須崎市を跨いでそびえる 675mの里山）の山頂は鉾ヶ峰と呼ばれるようになったということで、この名前の由来が日本各地にみられる「徐福伝説」となっています。

中国人留学生の中には、その話を知っている方が少数ですが、おられました。

田村さんの解説の後に、高知地区中国留学生学友会会長である県立大学の田甘霖さん、高知工科大学中国留学生学友会会長の張鉄涛、高知県日中交流大学生学友会会長の高知工科大学の入江康平さんが、それぞれ挨拶をされました。

最後に、会員で日中友好促進高知市議会議員連盟の神岡俊輔高知市議から閉会の挨拶があり、国家間の関係は多少緊張状態にあるが、このような大学生同士をはじめとした民間レベルの交流を重ねていくことを確認しました。

この日の行事がきっかけとなって、今後も多様な交流が続くことを期待したいと思います。(坂本記)

※参加大学等：高知大学、高知県立大学、高知工科大学、龍馬学園国際デザイン・ビューティーカレッジ
別紙に、学生による感想文を掲載しています。是非お読みください。

中村 哲前副理事長がご逝去

悲しいお知らせとしては前副理事長の中村哲さん（中村博孝理事の父）が 11 月 9 日に亡くなりました。享年 77 歳でした。心からご冥福をお祈り致します。中村さんは常日頃“親が満州鉄道にいたので、自分も引き上げてきた、戦争はダメだ！”とっておられたことが思い出されます。長年の日中友好活動本当にありがとうございます。

(公社) 日中友好協会第 4 2 回定例理事会報告

◆日 時：2021 年 11 月 12 日（金）13：00

◆場 所：東京華僑会館

◆出席者：岡林会長（委任状含む 22 人出席）

議題

<経過報告・主なもの>

- ・中日友好協会とのオンライン会合（7/19）・第 13 回定時総会（7/19 書面議決）
- ・ピンポン外交 50 周年記念事業（8/25 愛知県）・第 39 回全日本中国語スピーチコンテスト（9/末～10/末・22 都道府県で実施）

<協議事項>

(1) 2022 年度事業の計画

①2022 年度事業計画草案（最終決定は 2022 年 2 の理事会で決定）

- ・日中国交正常化 50 周年記念事業（日中青少年卓球交歓大会:延期または中止）
※後日、中止の決定通知あり
- ・講演会・シンポジウムの開催

②第 17 回日中友好交流会議（中国）・日中双方の代表団の派遣と受け入れ

③日中友好大学生スピーチ交流会（21 年度新規事業）

④オンラインによる講演会の実施（新規事業）

⑤日中友好ボーリング大会

⑥日中友好協会アリアケジャパン奨学金

⑦中国語普及事業

- ・第40回全日本中国語スピーチコンテスト全国大会
- ・公費留学生（中国政府奨学金）の募集・選考・派遣

⑧会報「日本と中国」発行事業

⑨出版事業（友好手帳2023年版の発行、雑誌「人民中国」の販売）

⑩「中日友好杯」中国大学生日本語作文コンクール（新規事業）

⑪その他

- ・各県協会実務者会議（東西ブロック別）・チャイナフェスティバルへの出展
- ・満蒙開拓記念館の見学推進

(2) セミナー企画班の設置（リモート、オンライン研修・講演への対応のため）

(3) 役員選考委員会の設置（来年の役員改選に向けて）

中国留学生に“ゆず100kg”を配りました！



昨年に続き、今年も11月23日（火・祝日）に田村信雄理事所有の仁淀川町の山で柚子を収穫し、約100kgを27~28日にかけて工科大、高知大農学部・朝倉キャンパス、県立大（池・永国寺キャンパス）の中国留学生を中心に配布しました。

この収穫作業には高知地区中国留学生学友会の副会長の黄炳南さん（県立大）、実行委員の谷俊泊告さん（県立大）、元会長の尹曉軒さん（高知大）が田村理事ともども汗を流しました。お疲れさまでした。

日中友好“新春ぎょうざパーティー”に参加しませんか！

恒例の行事となっている「日中友好新春ぎょうざパーティー」を2022年も下記のとおり行います。“本場の手作りぎょうざ”を作って食べましょう！希望者の方はぜひ申し込んでください。（※コロナウイルス感染状況の関係で中止する場合は参加者の方には年明けにお知らせします）

記

日時：2022年1月10日（月）10：00～

場所：朝倉ふれあいセンター（旧高知市朝倉支所:高知大学朝倉キャンパスの東側50m）

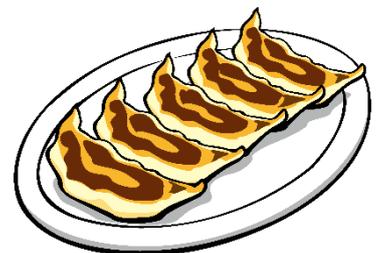
高知市曙町1丁目14-12 Tel088-844-1424

参加費:500円（日中学生300円）

申し込み：12月28日までにNPO高知県日中友好協会（088-825-0011）又は岡林会長（090-7149-4077）まで

主催：高知地区中国留学生学友会

後援：NPO高知県日中友好協会



第4回理事会（2021・11・20）報告-----

・主な経過報告

- ① “徐福伝説の里・佐川町、日中大学生交流リンゴ狩り（11/3）、②（公社）日中友好協会第42回定例理事会（11/12）、③定款変更、役員登記の事務処理、④「高知県日中友好中国帰国者の会」報告

・協議事項

- ①2022年度定期総会の日程について（素案）---コロナ禍の動向もあるが2月中下旬・3月上旬の土曜日に開催、形態は前段に総会、後段に「2022春節を祝う会」を実施。※春節を祝う会を実施しない場合は平日18時開催も検討
- ②2022「春節を祝う会」の開催について（素案）---コロナ禍であるが“立食パーティ”形式でなく感染症対策を徹底して開催（テーブル席での会食と余興）したい。留学生の“会食”参加の是非を大学側と協議する。（※その後、各大学との協議の結果、“会食参加は無理”となり、会食無しの形態で開催することを次回理事会で協議）
- ③「高知県日中交流大学生学友会」の組織化について（詳細は次回理事会に提起）
- ④日中「2022友好手帳」の販売について
- ⑤満州引揚者を描く「^{ワンシーター}王希奇展一九四六」展の鑑賞について
- ⑥次回理事会の開催について---12/18（土）15時～（18時から忘年会）
- ⑦「中国を理解する」オンラインセミナーシリーズ第8回セミナーの案内
- ⑧2021年後期会費の納入について---請求書（納付書）を会員に送付（前期・後期一括納付者は除く）

年末“年越し生活支援カンパ”の取り組み

昨年はコロナ禍のため中国留学生がアルバイトが出来ず、生活に困っている学生が大勢いることが判明し、急遽標記のカンパ活動に取り組み、17万円超の金額が集まり商品券（3,000円）を59名の留学生に手渡しました。

今年もこのカンパ活動に取り組みますので、会員の皆様のご協力よろしくお願い致します。

カンパは県日中事務局への持参、又は振り込みでお願いします。

カンパ振り込み口座

四国銀行・県庁支店 普通 5145998

特定非営利活動法人高知県日本中国友好協会（トクヒ） コウチケンニホンチュウゴクユウコウキョウカイ

鳥取産海産物の販売にご協力を！

同封チラシに記載のとおり松葉ガニや日本海産干物セットの販売をお知らせします。今年は燃料高騰で値段が高くなっているようですがご利用してみてください。



「友好手帳 2022」を販売しています！

日本・中国歳時記、中国の歴史記念日、住所録、全国地下鉄路線図、日本と中国の歴史的な文書・年史、中国全図、伝統行事、世界遺産（自然・文化）、少数民族、日中貿易・相互往来、友好都市一覧、中国の機関・団体一覧、などほかの手帳には載っていない記述がたくさん！ぜひご活用を。申し込みは事務局か役員まで。

販売価格：900円（カラー：赤／黒）

留学生と日本の大学生との交流が良かった！

高知地区中国留学生学友会会長 田甘霖

NPO 高知県日中友好協会と高知地区中国留学生学友会が主催、高知工科大学中国留学生学友会と高知県日中交流大学生学友会共催で11月3日(水)に佐川町で徐福伝説とりんご狩りのイベントを開催しました。高知県立大学、高知大学、高知工科大学からの中国留学生計15名、日本人大学生計20名事務局次長の田村信雄さんと常任理事の西岡さんをはじめNPO 高知県日中友好協会会員と協力者19名、合計54名がこのイベントに参加していただきました。



晴れ渡った空と澄んだ大気は気持ちいい天気の中、参加者たちは集合し、それぞれ車に乗って、リンゴ園に向かいました。少し長い乗車時間の中で留学生たちと日本人大学生たちお互いに自己紹介や交流をしました。りんご園は山の頂上にあり、みんなはりんご狩りを期待している顔をしながら山道を登りました。りんご園に到着してすぐ、スタッフの方においしいりんごの見分け方やりんごもぎのコツを教えてくださいました。普段りんごは食べたことがありますが、りんごを直接摘み取るという経験はなかなかできないので、初めてりんごの

もぎのコツを知りました。今まで思ったりんごを下に引っ張るのではなく、実際に横に向けて手首をひねると簡単にりんごを摘み取ることができました。りんごの木を傷つけずに、簡単にりんごを取れることは非常に達成感を感じました。皆は脚立や踏み台を使いながらりんごを摘み取ったり、取れたりんごを食べたりして本当に楽しかったです。りんごの甘味と酸味のバランスが良く、みんな食べながら喋って、学生たちも日本と中国の果物品種の違いなど交流し、みんなからりんごがおいしいという“誇り声”が止まりませんでした。高知ではいつも柚子や文旦が有名で、りんごも負けずに美味しいと思います。



また、午後にみんな昼食を食べてから、田村二郎さんによる徐福伝説について紹介し、徐福伝説の話を聞いて、中国人たちでもあまり知らない徐福伝説をこの場で初めて知り、日本文化と中国文化の交流は昔からあり、長い歴史を経ていることを知りました。そして、お互いに影響し、文化の交流は今でも続けています。一方、徐福伝説のことから今後日本と中国の交流の重要性を認識し、より交流を良くしていきたい、手を取り合って前向きにいきます。

今回の徐福伝説とりんご狩りのイベントで留学生と日本人学生たちそして、NPO 高知県日中友好協会の方々と一緒に非常に楽しい一日を過ごしました。さらに、今日の活動を通じて、日本と中国の学生たちはお互いに文化交流をし、日中学生の友好関係を築ききっかけになり、非常に有意義だと思います。今後も中国の方々と日本の方々と交流を深めていきたいと考えています。

ワクチン接種後で頭痛…でも良い体験！

高知工科大学 孫駿林

敢えてその日が良い一日と言いたいけど、ワクチンの接種を受けていた日の直後に林檎狩りのイベントに参加するのはどうにも失策としか言えないと思います。接種当日はあまり感じていなかった、帰り道バ

別紙：学生感想文

スの座席で自ずと熱が出てきました、ただの熱は朝飯前だぜと思ってたら、次の日に何遍もその傲慢に悔しかった。

骨が蟻に食われているような痛覚はイベントの当日に体に襲ってきました、足一步も動き出すと脳髄が揺らりのせいでこぼれるように俺の頭が痛かった。だが、みんなと一緒に何かの活動に参加しながら、青春の香りが溢れている女子大学生と会話し始めたら、ちょっとだけ痛みが解消されることにも感謝です。おまけに三つの林檎ももらいました、実に得です。

イベントの後半は徐福の伝説に関する遺跡につきまして、徐福さんの伝説、中国と日本の二千年以上に渡った友情をより深く理解できました。

とは言え、演説が行われた山の奥のある天文台に行く途中で一番苦しかったです、山道はくねくね、視野も森林の枝、葉っぱなどのせいで悪かった、曲がり角の所で何回も石の弾力に飛ばされ崖から落ちそうになる危険な状況が発生したので、無事に到着するのは何よりです。でも、車の中でゆらゆらと頭が泣くほど痛かった。天文台に到着したら、そこで弁当を食べました、いま振り返って考えるとやはりその弁当の味が無類でした。痛みを我慢して完食しました。そのおいしさはお腹がペコペコだということのせいかもしれない。帰り道も素早く学校に戻り、布団に潜り込んで夢に沈んでいた。

とにかく、いまいち良い日を過ごしました。



徐福の伝説は中国の歴史教材に載っていたことはあるが、印象にそれほど残らなかった。確かに不死不老の仙薬を探させた、始皇帝に。実は、この伝説は高でも憶測の一つだけです。

もっと面白い推測があります。例えば、ある学者は徐福が日本天皇の玉座に着いたということを主張した、ある学者は徐福が日本に渡る真の目的は斉国王家の末子を逃げ出すということを主張した、ある学者は徐福の仙薬探し任務がただの秦王国の暴政から逃げる手段でしたということを主張した。ともかく、真相は誰にも知らないです。私たちが覚えるべきことは日中の友好のために我々の青年たちはもっと交流しながら仲よくすべきことです。それを知っていたら今回のイベントに参加する甲斐があったと思います。

交流を契機に「高知県日中交流大学生学友会」を立ち上げ

高知県日中交流大学生学友会会長 入江康平

11月3日、西岡常任理事をはじめ多くの皆様のご支援のおかげで日中交流イベント～りんご狩り～を成功させることができました。改めて、関係者ならびにご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。当日は、県内の大学、専門学校から多くの日中両学生の参加があり、たいへん楽しいイベントの開催となりました。また今回初めて文化交流として、徐福伝説の里訪問と田村二郎氏による解説は大変有意義な時間でした。文化に触れる機会は大変貴重ですので、今後もイベントに取り入れていきたいと考えます。

また同日、高知県日中交流大学生学友会（日本人学生を対象とした団体）を設立いたしました。今後は高知地区および高知工科大学中国留学生学友会と協力して、より一層の交流促進と次世代の交流関係を担う人材を育成してまいります。今後とも高知県日中交流大学生学友会をよろしく願いいたします。